

600年の世界ワイン史最大の革命的イベントは「パリ・テイスティング」と「ベルリン・テイスティング」だ。このパリ・テイスティングの40周年と、ベルリン・テイスティングの記念行事が2016年9月2日、アカデミー・デュ・ヴァン東京校で開催された。

Photo: Sachiko Horasawa Text: Kojiro Hayama

ワインジャーナリスト葉山考太郎が考察

ワイン地図を大きく変えた ベルリン・テイスティング



ACADEMIE DU VIN

AOYAMA
GINZA
OSAKA
NAGOYA
SEOUL

本史での3大出来事が、「大化の改新」

「鎌倉幕府の成立」「明治維新」なら、世界ワイン史上最大の事件がこのふたつの試飲会だ。記念行事のゲストは、パリ・テイスティングの仕掛け人にしてアカデミー・デュ・ヴァンの創立者、英国人のステイヴン・スパリュアと、ベルリン・テイスティングの「司令官」にして勝者であるチリ人のエドワード・チャドウィックだ。

パリ試飲会事件は1976年5月24日、パリのインターコンチネンタル・ホテルで起きた。アメリカ建国200周年を記念し、ア

(右) 1976年のパリ・テイスティングでの風景。右端がスパリュア、左の女性が『La Revue de Vin de France』誌編集長のオデット・カーン。(下) 記念すべき第一回のベルリン・テイスティングの全景。欧州のワインのトッププロ40人が参加。



© Bella Spurrier
(Judgment of Paris)



アメリカのワインをフランス人に知ってもらうため、カリフォルニアの無名ワインとフランスの超銘醸物が対決した。阪神タイガースの1軍の精鋭が、早稲田実業の2年生チームを甲子園に招いて親善試合をする感じ。当時の世界人口41億人の誰も、企画したスパリュアも「カリフォルニアが3位に食い込んで、『アメリカのワインも頑張ってるね』となればいい」と思った。蓋を開けると、赤白両方でカリフォルニアがフランスを撃破。このニュースは一瞬で世界中を駆け巡った(負けず嫌いのフランスでの報道は半年後)。カリフォルニアが世界の檯舞台に立った瞬間だ。フランスは、アメリカ建国100周年を記念して1876年に自由の女神をプレゼントし、200周年でも気前がよかった。

スパリュアの蒔いた種は世界中に広まり、「銘醸ワインはフランスでしかできない」と思っていたが、ウチで造れるかも」と地球上のすべてのワイン生産者のヤル気に火がついた。この「根拠のある勘違い」が新世界ワインの大ブームを引き起こした。その波にうまく乗ったのがチリだ。

スティーヴン・スパリュア Steven Spurrier

1941年、裕福な地主階級に生まれ、幼少よりワインに親しむ。70年に渡仏、71年にワイン店、カーヴ・ド・ラ・マドレーヌ、翌年に世界初のワイン学校、アカデミー・デュ・ヴァンを設立。76年に、歴史的イベント、パリ・テイスティングを企画。現アカデミー・デュ・ヴァン名誉校長。

これがゴールではなくスタートだった。国や地域が変われば、嗜好も変わる。ベルリンだけでなく、世界を完全制覇しよう。こうして、13年まで、「ベルリン・テイスティング」は世界の22都市を巡回した。22回のツアーで三銃士が3位以内に入賞しなかったのは1度だけ。文字通り圧勝となった。私は06年の東京大会に参加し、ヴィニエド・チャドウィック00を飲んで、「おお、上質のシャンベルタンだ」とビックリしたことを覚えている。

で、主宰者として、「ミスター試飲会」のスパリュアを正面に置き、シャトー・マルゴー2000と01、ラフィット00、ラトゥール00と01、ソライア00など、ロバート・パーカーが100点満点をつけた超銘醸ワインを相手に選び、チャドウィックの三銃士をぶつけた。これに勝てば誰も文句は言えない。

記念すべき試飲会は、2004年1月23日、ベルリンで始まる。世に名高い「ベルリン・テイスティング」の初回だ。16種類の銘醸ワインを試飲し、ヨーロッパのトップ・プロ40人が出した評価は、セーニャ00とマルゴー01が同点で4位、銅メダルがラフィット00、銀メダルがセーニャ01、堂々の金メダルがヴィニエド・チャドウィック00だった。この瞬間、チャドウィックの「三銃士」は、フランスが独占していた神の領域へ入った。チャドウィックの快進撃は



右から、セーニャ、ヴィニエド・チャドウィック、ドン・マキシミアノ。世界に衝撃を与えた、チャドウィック「三銃士」。



エドワード・チャドウィック Eduardo Chadwick

1959年サンチアゴ生まれ。チリ・カトリック大学で産業技術の学位を取得後、父親が運営するエラスリスに、87年入社。以降、大改革を断行し同社を世界レベルに押し上げる。95年、ロバート・モンタヴィと共同でワイナリーを設立するなど、世界の注目を浴びる。

連戦連勝していると、必ず文句をつけるへそ曲がりがある。代表的な文句が、「チャドウィックのワインは、若いうちに飲んでうまいが、熟成の可能性は未知数だろう?」。負けず嫌いのチャドウィックは、「それでは」と、セーニャの1995などの複数ヴィンテージを入れた「セーニャ垂直テイスティング」を世界の10都市で開催。結果は、ベルリン・テイスティングより劇的で、7都市で1位から3位まで独占した。

アカデミー・デュ・ヴァンの特別セミナーでふたりの「生きた伝説」に会い、ゆっくりと、しかし、大きく変化する世界のワイン史のど真ん中にいると実感した。